

牛群検定通信 No68

◇ 防寒管理について ◇

今年も冬本番となりました。乳牛は寒さに強いと一般に言われていますが、防寒が必要な場合もあります。一般的な防寒管理の諸注意を紹介します。

1 子牛の管理

乳牛は、ルーメンで飼料を発酵させることで、発酵熱を得ることができます。言わば、カイロを体内に持っているようなものです。しかし、子牛はルーメンが未発達で発酵熱を得ることはできません。すなわち、カイロは持っていないことになります。

- 1) 分娩：分娩房には清潔な敷料を十分に入れます。羊水で濡れた子牛は急速に体温を失います。清潔なバスタオル等で速やかに拭き取るようにしてください。夜間の自然分娩は特に気をつけてください。
- 2) 初乳：冬季でなくとも初乳の給与は大変に重要です。初乳は分娩後6時間以内に2リットル、12時間以内に体重の10%程度給与します。パスチャライザ等で殺菌したものを、39～42度に加温して与えるのが理想的です。
- 3) 保温：難産などで体力の弱っている子牛の場合は、湯たんぽ等での保温を行ってください。
- 4) 管理：子牛は寒さに弱いので、カーフジャケットなどのウオーマー等の使用も大変に有効です。カーフハッチ利用については、日当たりや風向き、雨水の浸入などの地形に気をつけます。
- 5) 敷料：糞尿で濡れた敷料は体温を奪います。敷料はたっぷりと与え、こまめに交換します。ニーテストなどで湿気をチェックしてください。
- 6) 換気：冬季であっても換気は必要です。換気が不十分ですと、ホコリやアンモニアの濃度が高まり、肺炎などの呼吸器系の疾病を誘発させます。また、換気と送風は異なります。すきま風などが子牛に当たっていないか確認してください。
- 7) 飲水：水も39～42度に暖めたものを利用するといいいでしょう。

2 経産牛の管理

経産牛は寒さに強いと言われていますが、次の点に注意してください。

- 1) 換気：子牛同様に換気は重要です。少なくとも日中は窓を全開にして、換気することが必要です。
- 2) 冬季の乳房炎：ディッピング剤で濡れた乳頭が寒風にさらされると、乳頭がヒビ等の肌荒れを起こします。そこからS Aに感染することがあります。このような肌荒れ等による乳房炎が疑われる場合は、ディッピング剤を軽く拭き取るといいでしょう。

3 施設の管理

給水設備、バークリーナー、搾乳設備の凍結も気をつけてください。